



飯能ロータリークラブ会報



唐竹雪化粧 A coat of snow covers Karatake

© photo by Isao Yoshida

インスピレーションになろう

RI会長 バリー・ラシン

2570地区ガバナー 茂木 正

第3グループ
ガバナー補佐 細淵 克則

「想いを繋ぎ 地域と国の発展に奉仕する」

第2844例会 2019. 2. 20

—— 平和と紛争予防／紛争解決月間 ——

天候 晴 (NO. 55-34)

会長 島田秀和 幹事 馬場正春

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 五十嵐君、都築君

例会場：ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局：東京電力パワーグリッド湘川越支社飯能事務所内 〒357-0021 飯能市双柳353-4

☎(042)974-3111(代) FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@titan.ocn.ne.jp

- ・点鐘 島田会長
- ・ソング それでこそロータリー 四つのテスト
- ・卓話 中里昌平会員

【会長報告】

だいぶ暖かくなりました。今日は中里(昌)パスト会長から素晴らしい卓話が聴けるとたいへん楽しみにしております。よろしく願いします。2月23日でRIが114年目を迎えるそうです。中里(忠)会員にRLI修了証を贈呈します(拍手)。



【幹事報告】

◎例会変更のお知らせ

◇所沢RC

・3/12(火) 3/23所沢5クラブ合同例会に振替

- ・3/19(火) 定款の規定により取止め
- ・3/26(火) 3/29花見例会に振替
- ・4/9(火) 4/13・14地区大会に振替
- ・4/16(火) 定款の規定により取止め
- ・4/30(火) 定款の規定により取止め

◇所沢西RC

・3/12(火) 3/23所沢5クラブ合同例会に振替

【委員会報告】

◎ロータリー情報委員会 間邊君
入会3年未満の方、炉辺会談の案内を配付しました。3/15お忙しいと思いますがご出席をお願い致します。

◎雑誌委員会 半田君
「ロータリーの友 2月号」縦組P9、秩父について。年1回発行の「抜粋のつづり」は素晴らしい本なので30冊送ってもらって本の好きな人にあげています。P5「象徴ということ」を読んで涙が出てきました。読んでみてください。

【出席報告】MU・無届欠席0 沢辺出席向上委員

会員数	当日	前々回修正		
全数	対象	出席数	出席率	出席率
61名	6名	53名	86.89%	90.16%

◎土屋(崇) 会員よりご挨拶

お忙しい中、母の葬儀にご会葬有難うございました。96歳、7年間療養して苦しむ事なく旅立ちました。今後共よろしく願い致します。

【SAA報告】

前島副SAA

◎ニコニコBOX

- ・母の葬儀ではお世話になりました。土屋(崇)君
 - ・中里(昌)さん、本日はよろしく願いします。大木君、新井(景)君
 - ・去る2月17日(日)、上尾市民体育館で行われた剣道昇段審査で通算3回目の挑戦で合格出来ました。4年前、当時小3の孫に誘われて約30年振りに再開しました。3年後の4段を目指して精進を続ける所存です。半田君
 - ・早退します。大野(康)君
- 本日計23,000円、累計額686,001円。
◎27日例会当番は森田、安藤会員です。

【卓話】

講師紹介 福島プログラム委員長
第3グループ元ガバナー補佐、飯能RCパスト会長よりお話を頂きます。

私の職業奉仕

飯能RC
職業奉仕委員会 委員長 中里昌平会員

1967年に初めてヨーロッパへ行った時の写真が見つけられて、データ化して編集しました。当時カラーが出始めて、フィルムも焼き付けも高価でした。当時リコーか

ら発売されたハーフサイズのカメラを新調し、1000枚以上撮ってきたのですが、小遣いもなく焼けませんでした。やむを得ず「ベタ焼き」にして、そのうちにとしまい込み、たまたま一昨年引っ越しの際に50年振りに見つかったというわけです。編集した2時間近い動画の一部、海外での私の仕事に関係ある部分をご覧頂きます。

1964年は飯能RCが呱呱の声をあげた年でもあり、神武景気から高度成長時代への真っ只中にあり、大きな曲がり角にさしかかっておりました。

〈映像鑑賞〉「プロローグ」

1964年、個人の海外旅行が解禁。持ち出し外貨500ドルまで。1966年に先代社長が繊維工業技術協会主催の欧州繊維事情視察団に同行、日本との技術格差に驚くと同時に帰国後、懸案の自動経糸通機を発注する事になる。1967年、スイス・バーゼルでの国際繊維機械展(ITMA)の視察と共に、ドローイングマシンの仕様決定のために渡欧することになる。「日記は眠くともトイレの中でも書かないと特に海外では分からなくなる」という先代社長の教えを実行して本当に良かったと思っている。

〈映像鑑賞〉「池上彰のニュース解説」

いろいろ制限のある時代で、1ドル360円は実際には闇で400円位でないと手に入りませんでした。

〈映像鑑賞〉「初めてのヨーロッパ」

成田から第一便が飛んだのが1978年。その10年以上も前の時代、羽田では社員や家族が空港まで見送ってくれた。米ソ対立の冷戦時代で、ヨーロッパ行きはアンカレッジ経由。ボーイング727で北極経由の長旅となる。羽田～アンカレッジ:6時間。下は一面のツンドラ地帯、北極点は左方590km。機長から北極通貨証が発行される。アンカレッジ～コペンハーゲン:10時間。コペンハーゲンで3時間待ち。SASに乗り換えチューリッヒまで約2時間。計20時間のフライト。チューリッヒ・ストラーホテルに到着。早速市電を利用して、街に繰り出す。当時チューリッヒはロンドンに次ぐ金融都市。バーゼルの会場まではバスで1時間半、鉄道なら40分程の距離。5日間通った。バーゼルからはライン川の流れるも穏やかになり水量も増え、河口まで3000t級の船も往来する。そのためバーゼルはスイスの国際貿易港となり、スイスの貿易はこの港を通して行われている。ITMAは繊維産業に関わる展示会で、4年に一度ヨーロッパで開催される。1967年は第5回。2019年、第18回がシルセレナで開催予定)このフェアで衝撃的な機械との出会い。ドイツ製のドルニエ織機。それが今日の基礎になっている。

機械の仕様打ち合わせでウスターにあるツェルヴェイガー社へ。ホテルからシボレーで1時間。ウスターはチューリッヒ州3番目の街。湖に面した美しい環境の研究所のような建物のメーカー。東レ、東洋紡、ユニチカに次いで4番目の設置となる全自動経糸通機。打ち合わせを終えユーザーの工場へ見学に向かう途中、片田舎LANGIで牧場帰りの牛と遭遇。馬車も走るのどかな風景。シャツ・ブラウス地中心の先染めのドビー織機450台の工場。この工場でも使っていたドローイング・イン・マシン(経糸通機)仕様も決め、2年後、設置運転の運びとなる。「日本繊維新聞」の記事。「世界で4台目」とあるは32型。機種は4種類、32型は2重ビームでヘルドドロッパーを同時に通し、ビームがシングルかダブルか、ヘルドのみか、ドロッパーも同時かで4種になる。32型は最高機種。

精神的によく見たがとても見切れない。アツと言う間の5日間。今回のフェアで最大の収穫は「ドルニエ」との出会い。後に導入する事になり、50年後の2017年、日本国内で最も多い、ドルニエ織機の設置工場までこぎつけた。

これが現在の私共の工場内の一部です。ドルニエ織機。最初に設置したドローイング・マシン(経糸通機)は35年以上使い、10年程前に廃棄して入れ替えました。これが今のドローイング・マシンです。新聞報道に「20人が4人に」とありましたが、当時経済計算してみると設備費より人件費の方が安かったように思います。ただ、高度成長時代、人は集めにくく、高齢者では肩が凝る、若い者は反復作業で辛抱出来ない、1本間違えと8千本、1万本の経糸を最初から組み換える…というようなことから機械化に踏み切ったわけです。

初めての海外で、食欲にいろいろ見て参りました。当時2、3週間の滞在は普通で、先代社長は20日以上、私の場合も15日間でした。観光でパリに3日間。お金も無く、



移動はすべて地下鉄メトロ。ナポレオン広場は緑の芝生でしたが現在はピラミッドが建設されルーブル美術館中央入口、パリのランドマークになっています。ロンドンに3日間、その後ドイツに移ります。「石の文化」のヨーロッパでは500年も前の家に住んでいるのは珍しくありません。

30年前のイニシエーション・スピーチで横浜元町フクゾー洋品店との出会いのお話をしました。

今、飯能市は横浜中区と友好協力協定を結んでいます。私共はフクゾー洋品店との取引が60年以上になります。「ハマトラ」と言われ一世を風靡した元町の名店三種の神器は「フクゾーの洋品」「キタムラのバッグ」「ミハマの靴」。現在のオーナーは創業者森本福蔵さんの孫にあたります。創業者からはいろんな事柄について教えられました。その中に「子どもはアメリカへやっちゃめたよ」というのがありました。当時アメリカは住み易い、暮らし易い。息子さんの弟の方は写真家で、NYへ行って結婚し帰ってきませんでした。その経験から言われたのだと思います。2007年、飯能RCでソルトレイク国際大会に行った時には五十嵐会員のお姉様にNYを案内して頂きました。

早い時期に海外を経験し人生にいろいろプラスになった事もあり、子どもにはなるべく早い時期に海外を体験させたいと考えていました。後継者育成は普通、同業に頼むのですが、織物づくりの世界では完成品を求められるわけで、織物の後加工・仕上げの工程を知らないと出来ません。私は仏子の織物組合の工場で自分の工場のような気持ちで加工機を動かしました。組合工場は閉鎖してしまったので、息子は全く場違いの名古屋の染色整理工場へ1年やりました。その後、縁あって世界一の織物の産地イタリア・プラトーのサブライマーから提携の話が持ち込まれ、それなら修行のために息子を預かってくれと持ち掛けました。パリはファッションの都と言われますが、その多くはイタリアの織物で成り立っています。2~3か月のつもりが結局1年近く居りました。預かってもらった先がプラトーのロータリアンでした。

2012年、飯能RCでイタリアへ行く機会があり、フィレンツェから1時間程のプラトーを訪問しました。

〈映像鑑賞〉「イタリア旅行2012」

プラトーは人口約19万、伝統的な繊維業の町。イタリアのマンチェスターと呼ばれる。20世紀から多くの移民を受け入れ、最近では1~2万人の中国人を抱えている。プラトーRCの例会場は山際の閑静な場所にある高級レストラン。長い並木道の先にバラが咲き乱れていた。例会前ワインで歓迎。三々五々メンバーが集まる。練習していったイタリア語で挨拶。バナー交換。宴会が始まり最初は慎ましく談笑していたが、やがて飲むほどに酔うほどにお互い盛り上がり大変楽しい例会でした。

その時交換したプラトーRCのバナーです。バグジー一つで見ず知らずの世界の人たちと何のわだかまりもなくお付き合い出来る。これがRCの国際性です。

2008年、ドイツ・フランクフルトの国際テキスタイルショー「ハイムテキスタイル」に参加した時にも、合間を利用して単身でMUして参りました。言葉の障壁も不安もありましたがワインで歓待してくれました。その折にもバナー交換して参りました。入会の折にバナーをお渡ししていると思いますが、事務局に申し出て頂ければ用意出来るわけです。「バグジー一つで世界に通じる」RCの国際性を物語る一面です。皆さんもこの特典を生かし、国内だけでなく海外でもMUする事をお勧めします。

ヨーロッパでは展示会場でオールドサンプルの販売が行われる事があります。16~17世紀の生地見本だったり図案だったり。こういった機会でないと思われぬと思いが、何でこんなものに魅力があるのか「車が買える値段だ」と興奮していました。一般の人から見たら、どこに値打ちがあるかと思われるでしょうが、アイデアソースとして貴重なものになります。今、著作権等いろいろ難しい時代ですが、これは全く問題なく使えるわけです。

とにかく機会あるごとにロータリーの国際性を皆様方も楽しんで頂きたいと思えます。